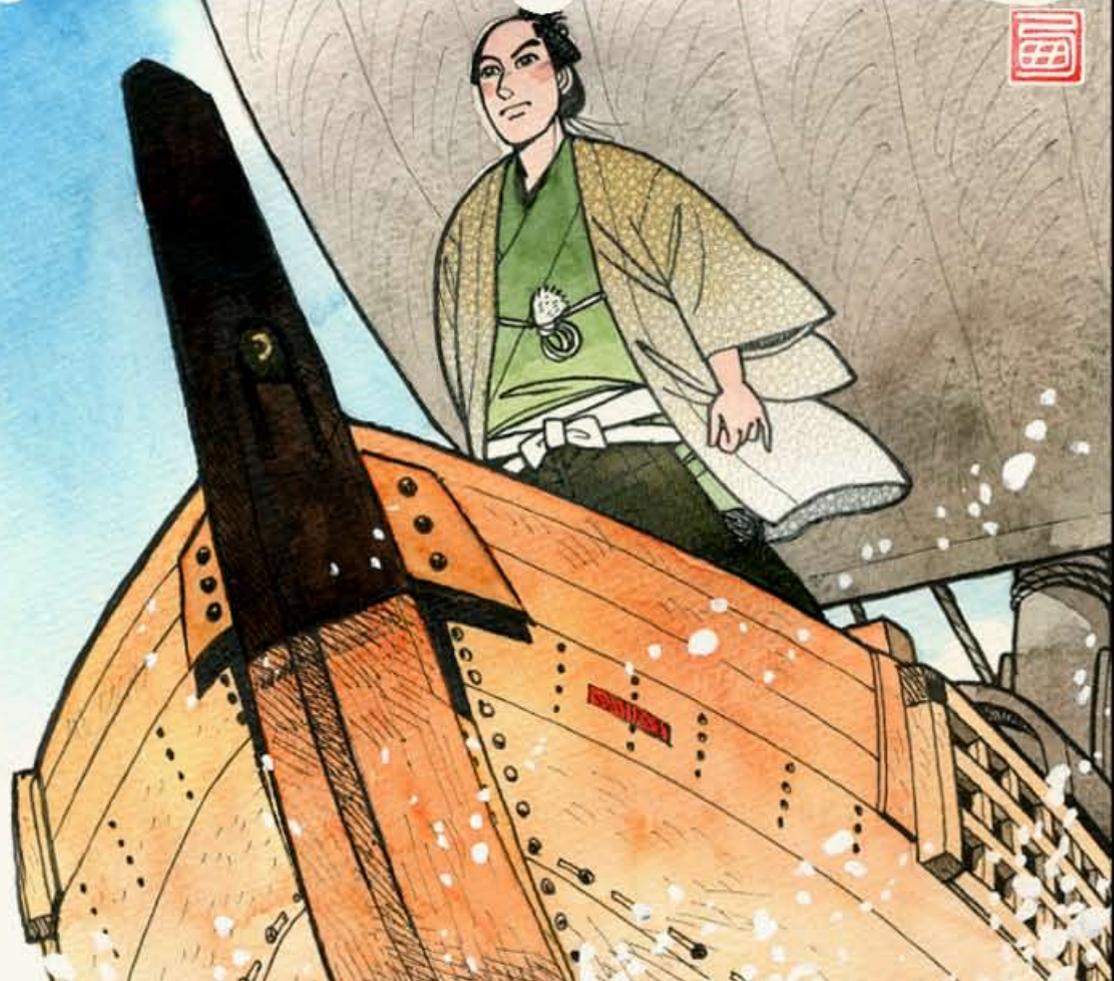


住友四百年

源 泉



第八話「危機に立ち向かう男」

作:西ゆうじ 画:長尾朋寿



源兵衛どん。
ほな、行って
参ります。

へい。
お気をつけて。
あんじよう
頼みます、
治右衛門はん。

お達者で。
ご無事で。

◎この作品は、住友の歴史を参考にして創作された物語です。◎



あの別子銅山支配役の
治右衛門はんが養子にした、
九つの駒之助が、
お前さんのような
一人前の手代になるまで…
泉屋はもつやろうか…





何言うてますんです。
源兵衛はんが泉屋を
立て直さなあきしまへん
のですで。

そうでっせ。
そのために、去年の六月に
源兵衛はんは吟味方兼任で、
本店の支配副役に
就かはったんでっせ。



はやな。
頑張らなあかな。



へい。私^{わて}らも
頑張ります。

一緒に
泉屋のために。

そうすれば、
ひよつとすると…あの
駒之助が泉屋住友をさらに
立て直して、盤石な店に
してくれるかも知れんしな。
あつははは…。

実はその頃…江戸時代
後半頃の泉屋住友は、
経営難に陥っていたのです。

経営難の一番の原因は、
開坑から百五十年余り経ち、
老山となりだした別子銅山の
「遠町深鋪」でした。



「遠町深鋪」の「遠町」とは、
年月が経つにつれて、薪炭や坑木を採る
山が段々と遠くなり、経費がかかる事。
「深鋪」とは、坑道や採掘場所が炭口から
遠くなり、吹き出す水の汲み上げ。
抜き取りなどの経費がかかる事です。
その他、物価の高騰やいろいろな問題が
あり、兎にも角にも経営難だったのです。



別子のお山には
仰山の人がいて
はるんですね、
お義父っあん。

うん。堀子(ほりこ)
おいふ(おいふ) 負夫(運搬人)や
かなめ(かなめ) 碎女(くずめ)なんかの稼人が
約四千人。

四千人！

それから、山師家内と
いうてるんやが、私ら泉屋の
人間(大坂本店採用)、手代や
子供(丁稚)が五十人に、
下働き(現地採用)の仲間
小者が五十人いてる。

わいも十一歳になる。
再来年の正月から、
子供になって
働くんでんな。

そや。そして誰よりも
一生懸命に働き、
誰よりも勉強も
するんや。

……!?

…一生懸命に働くのは
わかりまっけど、勉強も
せなあきまへんの？

そや。

ひとつの上に
立つためや。

お義父っあんみたいに
別子銅山の支配役に
なるためですれ!?

いいや。
もっともっと、
その上を目指すんや。

そして、なくてはならぬ人間になるんや。泉屋住友にとってな。

へい。

勉強でわからへんことがあつたら、お前のお実父つあんと私の弟の、京都にいてる北脇淡水に手紙で訊け。淡水は曼殊院親王に仕える立派な漢学者やさかい。

へい、そうします。

ほな、まずは舗方役所にあいさつ、へてから勤場や。

へい。

帰ったでえ。

お帰りやす。

へい。



天保九年（1838）正月。
十一歳になった駒之助、後の
住友初代総理事・広瀬幸平は、
泉屋住友・別子銅山勤場の子供
（丁稚）として働き始めました。

それ舗方役所へ
届けるんでつか？
わいが行って
参ります。



そや。いつも
いの一番に気が
つくな、駒之助は。
ほな、頼むで。

へい。

助かった。

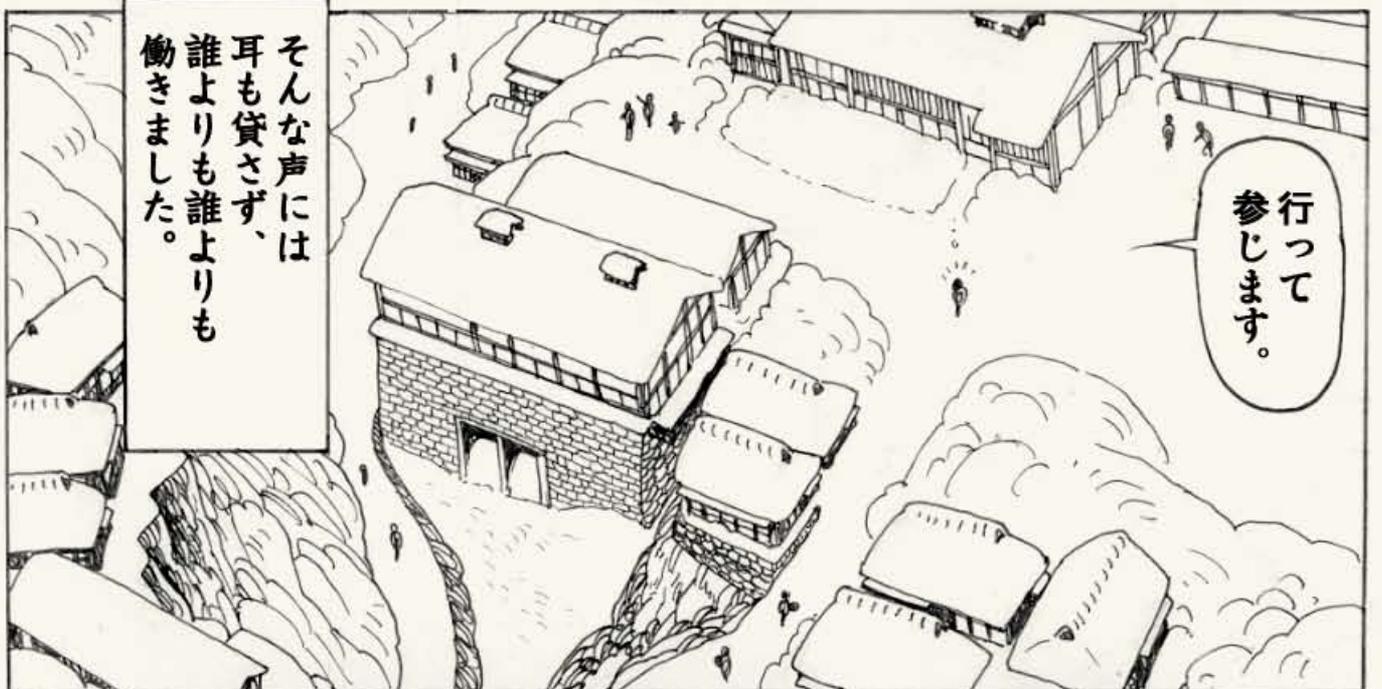
あいつのお陰で
楽できるわ。

下手に支配役の
治右衛門はんの
養子になったさかい、
楽は出来んのや。
可哀想に。



行って
参じます。

そんな声には
耳も貸さず、
誰よりも誰よりも
働きました。



そして常に、
我先にと仕事を
みつめて
働いたのです。

掘子(鉞夫)はんたちは、
ああやって掘る稽古まで
してはる。

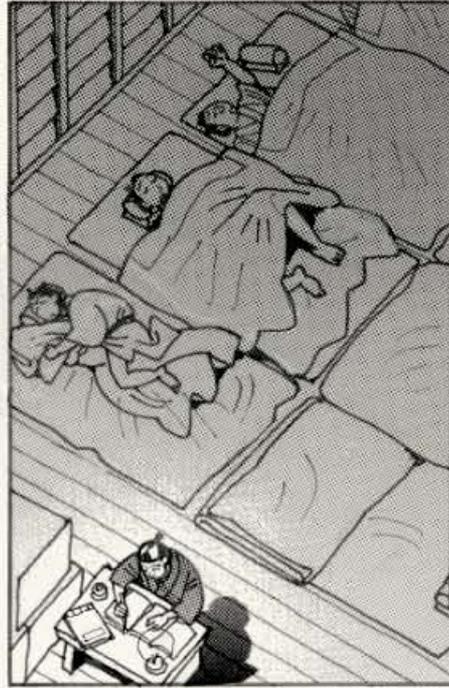
ご苦労はん
どすう！

そして命を懸けて
銅を掘って
くれはるさかい
泉屋はあるんや。

だから自分も負けじと働き、
上に立ち、泉屋のために
働きたいと励んだのです。

お届けに
来ました〜！

夜、疲れ切っていて眠い
少年期であっても、
愛用の辞書
「大全早引節用集」を頼りに、
独り勉学にも打ち込んだのです。



……ここがわからへん
なあ。そや、明日、
銅山役人の方に
教えていただく。



それでも
わからへんかったら、
京の淡水叔父さんに
手紙で訊こう。

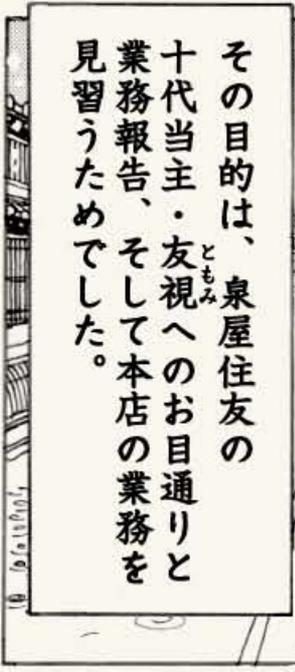


嘉永元年（1848）一月。
すでに手代に昇進し、
名も新右衛門と改めていた、
後の広瀬は、大坂の
泉屋本店に出向きました。





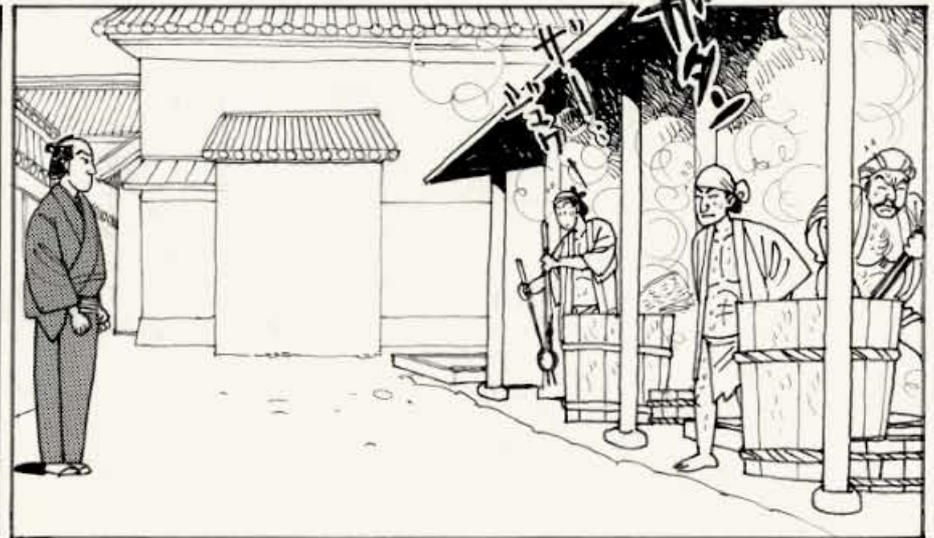
その時、
広瀬宰平、二十一歳。



その目的は、泉屋住友の
十代当主・友視^{ともみ}へのお目通りと
業務報告、そして本店の業務を
見習うためでした。



…なるほど、ああやって
棹銅にされるんやなあ…。

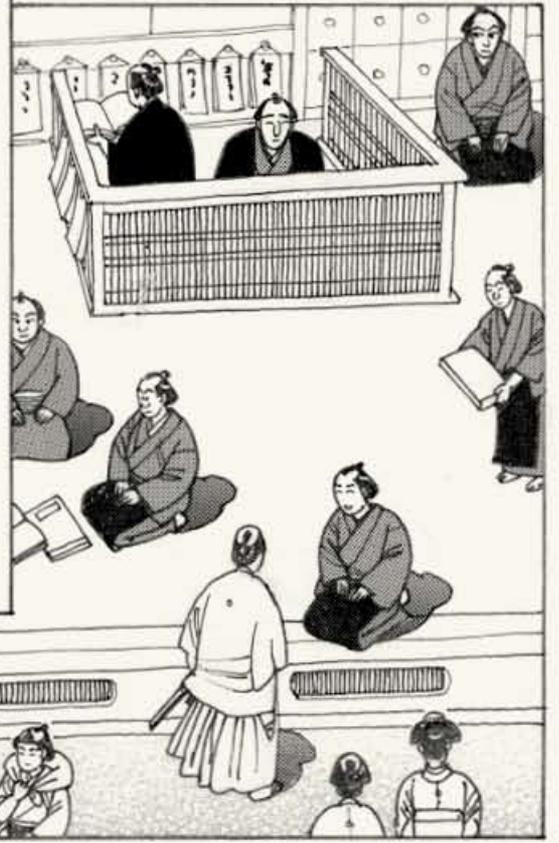


粗銅を別子から大坂まで運んで、
銅にするんやけど…あれを
新居浜あたりでやれば、
銅だけを大坂に運ばええから、
運送賃も安うすむの違うかなあ。



先輩達に聞き、教えを得ながら、
仕事を手伝いもし、一から十まで
学び取ったのです。そればかりでなく…。

また泉屋住友の中核である
本店の事業の諸々を
見るだけではなく、



その頃は隠居(退職)して、荷請問屋を
営んでいた、元泉屋の日勤老分
(最高 役職・会長)だった鷹葉源兵衛
(後に復帰)を訪ねて教えを受けも
したのです。

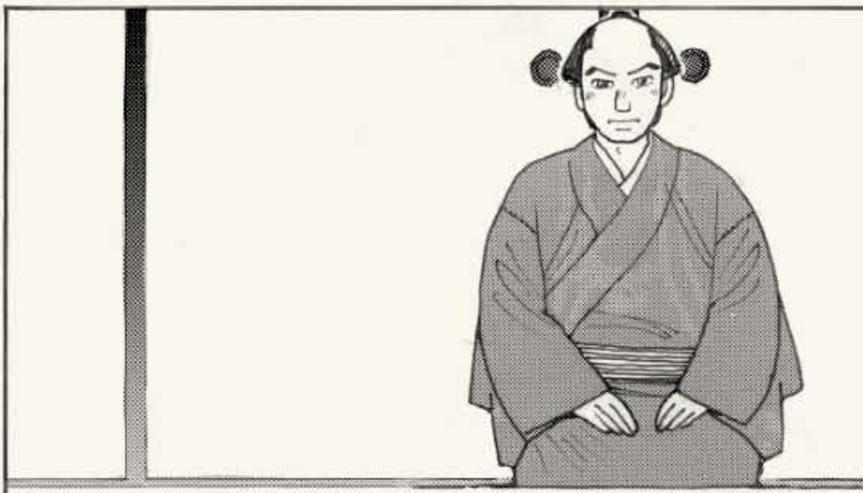
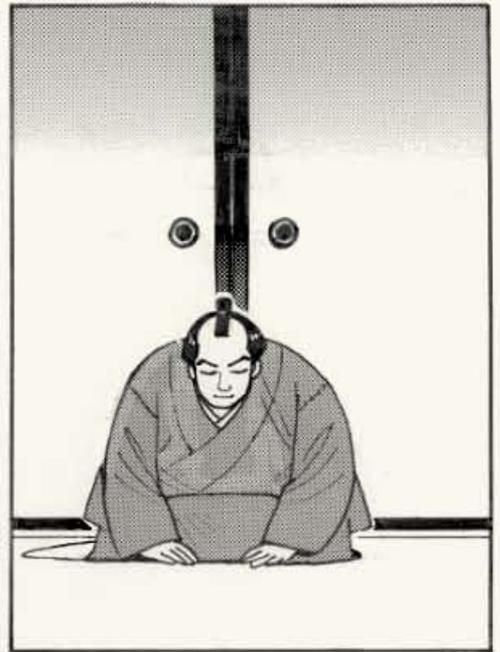
もう二十一になったか。
前に会った時は
九つやったな。

へ。





普通なら、折角の大坂なんやさかい、芝居見物も女遊びもしたい年頃やろうに、わての所へそんな真面目な顔で来たんは、よっぽどのことやな、新右衛門？



へい。別子のお山の奥にいてると、わからんへんことがいっぱいなんでおます。ほんでいろいろと教えて頂きとうて参上いたしました。



銅座(幕府)へ納める御用銅(輸出用)は、七十二万斤(約432t)で、それ以外は地売銅(国内販売用)として、御用銅より高く買い上げられて来たんは知ってるな？



まず知りたいんは、泉屋の経営難の理由でおます。

へい。
最盛期の元禄十年頃は、
泉屋の銅は二百万斤を越えて、
えらい儲かった。

そや。けど近頃は、
御用銅の産出は
七十二万斤にも届かへん。

別子のみんなは
頑張ってますが、
遠町深鋪で…
産出量が上がりません。



御用銅の買い上げ価格は、
兎に角安い。それに量が
取れん。で、わては何度も
幕府おかみに御用銅の値上げと
割当量を減らして欲しい、

それがかなわないなら、
別子は閉山すると、
脅しの様な事を試みて、やっと
少し値上げてくれはって、
それで近頃ちよつと
楽になったという訳や。

その他、困難になっている大名への
貸付け金、物価の高騰、幕府から
銅山へ安く下げ渡されて来た
米の減少と値上げ…
いろいろと教えられたのです。



嘉永六年（1853）六月、
ペリー来航と共に、
日本は幕末の動乱期を迎え、



江戸幕府は滅亡し、
世は明治維新を迎えました。



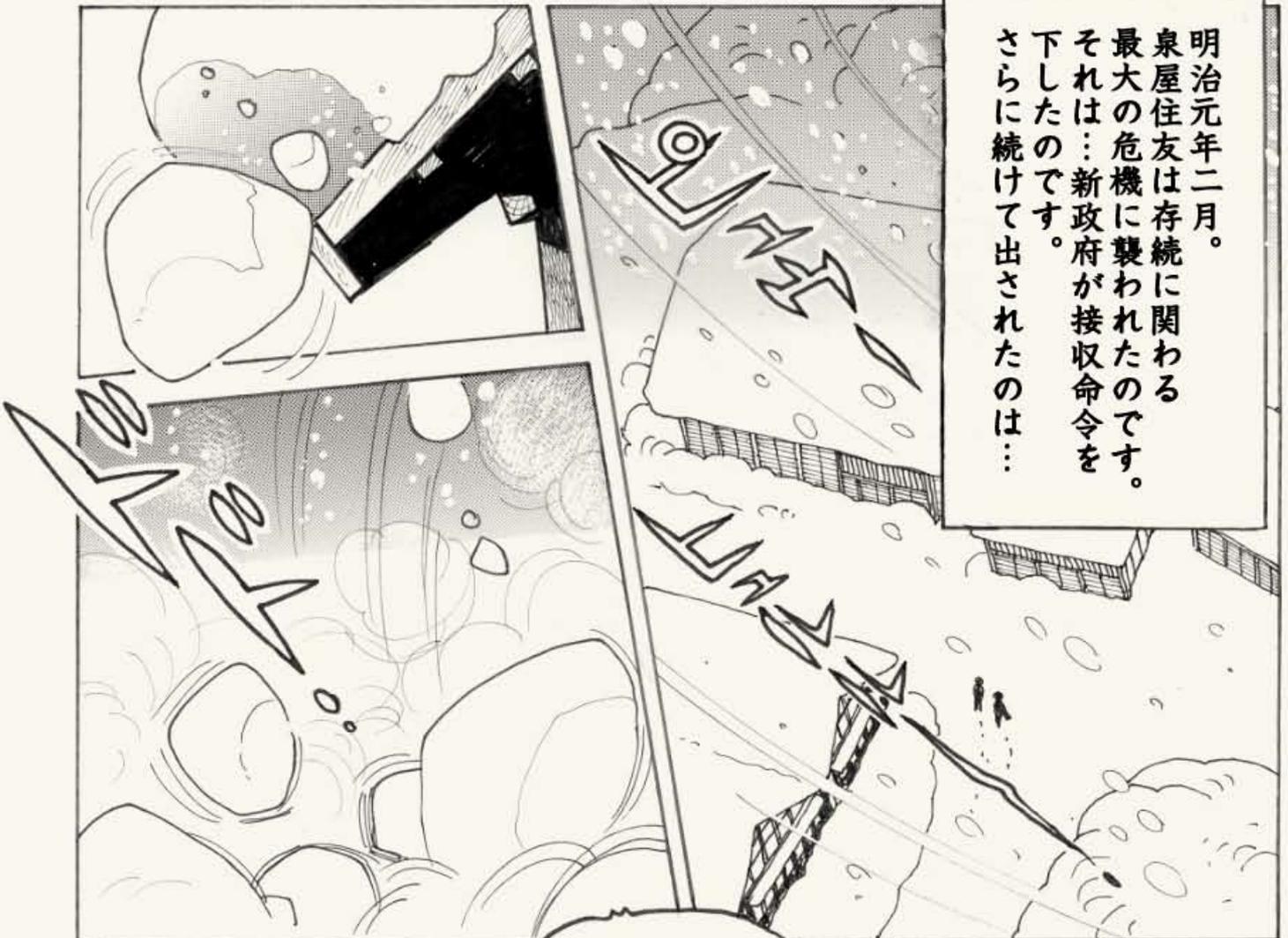
その間に新右衛門（後の広瀬幸平）は、
二十八歳の時に、住友当主・友視のはからいで、
広瀬義泰（元泉屋江戸浅草出店支配人で新居浜の
豪農）の養子になり、慶応元年（1865）九月
二十八日に三十八歳で別子銅山支配人に
就任していました。



明治元年二月。
泉屋住友は存続に関わる
最大の危機に襲われたのです。
それは：新政府が接收命令を
下したのです。
さらに続けて出されたのは：

此の度、伊予の幕府領は、
朝廷の公領となり、
土佐藩の預かりと相成った。
当別子銅山も同様。
左様に心得ておけ！

土州少将当分御預
別子銅山出張所





また、立川宿の泉屋の
米蔵も差し押さえる！



お、
お前は誰だ？



それは如何なる
理由でございますか、
お役人どの？

泉屋住友・
別子銅山支配役、
広瀬義右衛門と
申します。

この時、広瀬宰平
四十一歳。



詳しい事を
知りたければ、
伊予三島の
屯所におられる
川田元右衛門殿に
聞け！

川田様
とは？



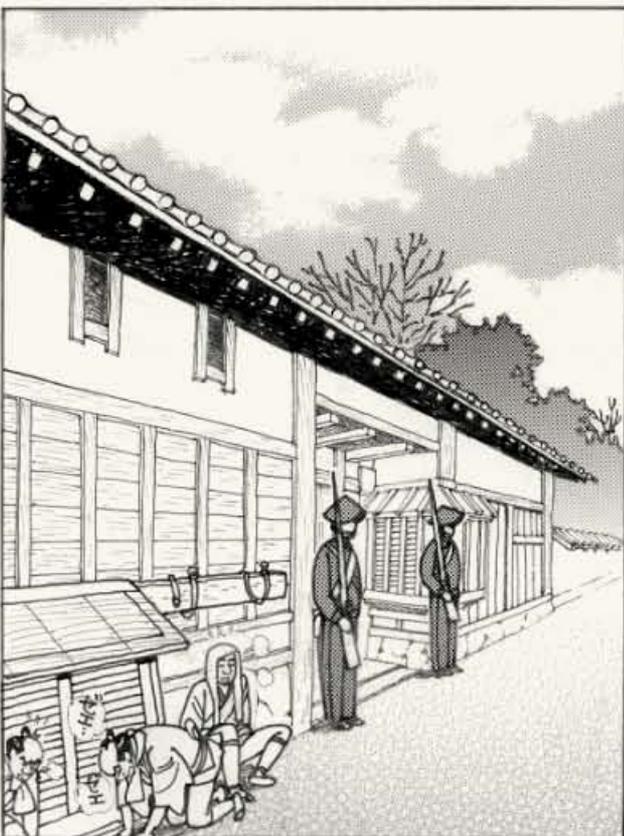
三島におられる
川田様に
お会いしてくる。
早駕籠を
用意してんか。

三島までは
七里半(約30km)も
おますで、お支配役…。



土州(土佐藩)の
別子銅山出張所掛で
あられる。





別子銅山：
泉屋の支配役が、
何用あつて参った？

この川田元右衛門は、
土佐の杓田村の庄屋の出身で、
後に名を川田小一郎と改めて、
岩崎弥太郎らと、
三菱商会設立に参画し、
後年は、日本銀行総裁に
なった人でした。

申し上げます。

別子銅山は確かに、
伊予の幕府領に
ございます。

が、元禄三年に
発覚いたし、翌年
元禄四年より今日まで、
百七十八年の永きに
わたり、独力で経営
して参りましたのは
我が泉屋住友に
他なりません。

…うん。

しかしながら、
ご維新になったからといって、
新政府がこれを没収し、
経験無き者に任せたとすれば、
火を見るより明らか。

銅山経営相成らず、
国益に反する事
なります。



これより我が国は欧米諸国に
追いつき、肩を並べ、更に
その上を目指さねばなりません。
そのためには銅は…住友の銅は、
なくてはならないものでは
ないでしょうか。



私の言葉になんら一切の
空言…嘘偽りは無く、
諸事潔白実意を尽くして、
申し上げさせて頂きました。

別子銅山を守るため、
泉屋住友で働く人を守るため、
そして日本の国益を守るため。
広瀬宰平のその思い、
届くのか——!?